

講評

『観光のレッスン——ツーリズム・リテラシー入門』

山口誠・須永和博・鈴木涼太郎著、新曜社、2021年2月

本書は、観光に「リテラシー」という概念を導入することで、文化的活動としての観光の可能性を探究しようとする新たな観光学の入門書である。まず、1章では、ツーリズム・リテラシーが「よりよい観光を実践するための技法と思考」として定義された上で、その中でも「ツーリスト（観光者）」のリテラシーに注目し、「観光は人をつくり、社会をつくる」という観点から、よりよく「観る」ことを通して、よりよく（自由に）生きる人を増やし、多様性に満ちた社会をつくる観光の可能性が指摘される。そして、2章・3章では、このようなツーリズム・リテラシーを身につけるための具体的な事例と方法が、3人の著者の丹念なリサーチに基づいて紹介される。その事例には、テーマパークとしての「小江戸川越」や、コミュニティ・ベースド・ツーリズムが実践されるタイ・ヤオノイ島、グローバルな食文化が生み出されるハワイなど、国内・海外の様々なフィールドが含まれ、現代の観光を複眼的な視点で理解するためのヒントが散りばめられている。さらに、新たな世界を「観る」ための中期留学、写真集制作という実践的な方法が紹介されているのも特徴的である。さらに、4章では、ツーリズム・リテラシーの学術的な背景として、「表現」する観光、再帰性、自由への観光というキーワードを用いて、よりよいツーリストを育てるための観光教育の必要性が主張されている。

本書の最大の意義は、何よりも「ツーリズム・リテラシー」という概念によって、「なぜ観光を学ぶのか」という観光教育の根源を問い直している点にある。観光学に限らず、大学教育全般において、「なぜ〇〇を学ぶのか」を説くことは、学生が主体的に学ぶための姿勢を涵養する上で重要な意味を持っており、本書の議論は、新たな時代のリベラル・アーツ教育そのものを再考し、実践するのに役立つ広い射程を持っている。特に、観光教育は、COVID-19の影響で危機に晒されている中で、あらためて観光教育の意義と可能性を社会に発信しようとする本書の価値は非常に高い。これまで観光教育は、「観光立国」を掲げる日本政府の方針と連動して、観光産業を発展させるための人材を育成する実学的な教育に重点を置いてきた一方で、ツーリスト（観光者）を育てるための教育は整備されておらず、観光の可能性を十分に活かしきれていないとする本書の問題意識は的を射ており、広い視野で多様な観光事象を捉えようとする観光学術学会の理念とも通底していると言えよう。

また、学習者にとっても、ただ観光に関する知識を得るのではなく、観光文化に対する見方・考え方を学ぶのに適した豊富な事例が取り上げられ、平易に論じられているのも魅力的である。その中では、グアムにおける戦争の記憶を隠蔽する観光のまなざしに関する議論に代表されるように、物理的に「見えて」いても文化的に「観えて」いないことの問題性が論

じられており、単にレジャーとして楽しむだけでは見えてこない観光のあり方をより深く理解するための批判的な視点を身につけることができるようになっている。このことは、学習者の「観る」技能を高め、まさにツーリズム・リテラシーをつくり変えることにつながってくるであろう。

ただし、2章、3章で取り上げられる諸事例には羅列的な印象があり、ツーリズム・リテラシーをどのように育てることになるのかが不明瞭なものもある。また、本書の中でも言われているように、ツーリズム・リテラシーが切り拓くとされる「自由への観光」に関する議論がやや抽象的で、それがどのようなものなのかが分かりにくいのも事実である。それでも、このことは本書の価値を減じるものではなく、ツーリズム・リテラシーの実践に関しては、今後のさらなる展開を期待したい。

以上のように、本書は社会的・文化的な観点から、観光を学ぶことの意義と可能性について論じた、今までにない画期的なテキストとして高く評価できる。したがって、本書は、教育啓蒙著作賞に該当すると考える。

<目次>

はじめに もっと自由になるためのレッスン

1章 ツーリズム・リテラシーとは何か

- 一 「観光」とは
- 二 ツーリズム・リテラシーという考え方
- 三 ツーリズム・リテラシーの原理
- 四 観光の可能性は尽くされていない

2章 ツーリズム・リテラシーのフィールドから

- フィールド1 「わたし」ツーリズム——「新たな観光の様式」へ (ホーム)
- フィールド2 テーマパーク「小江戸川越」ができるまで (埼玉・川越)
- フィールド3 現代アートとツーリズム (香川・直島)

3章 ツーリズム・リテラシーのアイデア集

- 海外1 ジェンダーで眺めるバンコク (タイ・バンコク)
- 海外2 旅行のプロが選ぶ「本場のベトナム料理」 (ベトナム・ハノイ)
- 海外3 「まなざし」とリテラシー (米国・グアム)
- 海外4 世界遺産と地域コミュニティ (ラオス・ルアンパバーン)
- 海外5 コミュニティ・ベースド・ツーリズムの可能性 (タイ・ヤオノイ島)
- 海外6 グローカルな交流文化 (米国・ハワイ)

- 国内1 日本のなかの「異国」を旅する (群馬・大泉町)
- 国内2 団体旅行からみる観光の過去と未来 (栃木・鬼怒川温泉)
- 国内3 アイヌ文化の「現在」を学ぶ (北海道・二風谷)
- 国内4 旅するおみやげ (神奈川・箱根)

- 方法1 地球の各地でちょっと暮らしながら学ぶ方法 (中期留学)
- 方法2 表現するツーリズム (写真集の制作)

4章 ツーリズム・リテラシーの学術的理解

- 一 リテラシーと観光
- 二 再帰性と観光
- 三 リベラル・アーツと観光

5章 もっと観光を学び問うためのブックガイド

- 一 世界と出会う旅——紀行書・体験記・ノンフィクション①
- 二 日常を見直す旅——紀行書・体験記・ノンフィクション②
- 三 もの語る旅——案内書・随筆・小説
- 四 学ぶ旅——学術書

あとがき